

流水を活かすオホーツク流儀のおもてなし活動

1 社会資本の概要

国道334号は、平成17年に登録された知床世界自然遺産地域を唯一通過できる道路であり、沿道にはオホーツク海や知床連山をはじめとする優れた自然景観を有しています。

国道の北西側に面しているオホーツク海には、冬の知床の自然景観を代表する流水が接岸することから、北海道の中でも希少な沿道景観を楽しめる地域



国道334号沿道に接岸するオホーツク海の流水

であり、流水を見られることに関しては世界最南端の地域でもあります。

知床を訪れる観光客は年間約120万人で、近年は流水ウォークなど冬期ならではの体験型観光メニューも充実し、インバウンド観光が増加傾向にあります。



通常の道路除雪では、海側に雪壁ができ、流水への眺望を阻害している

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

国道334号は、網走方面から知床へ通じる唯一のアクセス道路であり、特に冬期間は道路管理者の除雪による交通確保が重要となっておりますが、除雪後に出来る雪壁の影響で通行者に冬の観光資源である流水景観を楽しんでもらえない状況がありました。

そこで、地域の方々に除雪ボランティアを呼びかけ、ウトロの冬期来訪者のピークを迎える2月から3月にかけて開催している「知床ファンタジア」に



地域住民が流水景観への眺望確保のため、雪壁を除雪

合わせて雪壁の除雪を行い、来訪者に流水景観を楽しんでいただく「オホーツク流儀のおもてなし活動」を、冬の厳しい気象条件の下、平成19年度から毎年実施しています。

参加者自らが有する除雪機材を持ち寄ることで、準備のための負担が軽減でき、また、一般参加者に対しては地場産品を活かした軽食を提供し、企業での参加に対しては感謝状を渡すなど、参加者の満足度を向上させる仕掛けをしています。



通常の機械除雪（右）とボランティアによる除雪（左）の違い



北海道斜里郡斜里町

しれとこ・ウトロフォーラム 21 / 北海道開発局網走開発建設部

3 活動の成果や波及効果等

自分達で流氷のビューポイントを確保し、来訪者に対して機会があるごとに積極的に案内するようになった結果、多くの来訪者が立ち寄り、写真撮影している姿が見られるようになりました。

また、様々な立場の人が、一緒に作業することで地域内のつながりが強くなりました。

公共事業という一括りのとらえ方の中で、地域にとって必要な事業であることの理解が生まれたのと同時に、特に道路関連施設について、地域のもの（大切に・維持し・価値を高めよう）という考え方が生まれました。



ボランティアによる除雪後、流氷景観への眺望が確保されたことで、多くの来訪者が立ち寄り写真撮影などで賑わう



大人から子供まで地域が一丸となった地域住民の手による花植え作業

喜びの声



受賞者

しれとこ・ウトロフォーラム21
代表 松本鉄男

コメント

このような賞をいただき大変うれしく思います。知床の価値を多くの人に観てもらいたいと始まった活動です。今後も、皆さんの協力とつながりを大切に、その価値を誇れるものにしていきたいと思っています。

活動内容

除雪ボランティア、花植えボランティア、ポケットマーケット など

活動の経緯

- 平成 9年 フォーラム21設立
まちづくり活動開始
- 平成19年 花植えボランティア開始
- 平成20年 ガードレール雪かき開始

所在地

北海道斜里郡斜里町ウトロ西～ウトロ東

活動主体及び連絡先

しれとこ・ウトロフォーラム21
(0152-24-2826)

対象となる社会資本

国道334号
※管理者：国土交通省北海道開発局
網走開発建設部



手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集